

Secularism and Religious Diversity in Japanese Higher Education: A Case Study on Providing Prayer Spaces for Muslim International Students

| | |
|--------|---|
| 著者 | ラムダニ アンディ ホリック |
| 学位授与機関 | Tohoku University |
| 学位授与番号 | 文博第608号 |
| URL | http://hdl.handle.net/10097/00133408 |

【博士論文要旨】

Secularism and Religious Diversity in Japanese Higher Education:

A Case Study on Providing Prayer Spaces for Muslim International Students

「日本の高等教育における政教分離と宗教による多様性

—外国人ムスリム大学生向けの礼拝施設設置を中心に—

Andi Holik Ramdani

近年、日本の高等教育は教育研究機能や国際競争力を高めること、国際的なレベルの教育研究を行うこと、そして国内外の社会に貢献することが求められるようになった。それゆえ、日本の国公立大学であれ私立大学であれ、国際的な大学間ネットワークを立ち上げるとともに、大学の国際化戦略として留学生受け入れに向けた積極的な取組を行っている。

日本政府が2008年に「留学生30万人計画」を策定したことに伴い、来日するムスリム留学生が毎年増加し、イスラーム諸国との教育関係協力も進んでいる。このように、ムスリム留学生の増加に伴い、大学環境の文化的・宗教的な多様性はさらに増すと予想されている。

しかし、世俗社会である日本においては、宗教は個人の領域に属すると一般的に考えられており公の場では語られない傾向がある。特に、政教分離原則を持っている国立大学と原則に当てはまらない私立大学では、ムスリムの礼拝をどのように受け入れるのかという問題に対して向き合う必要がある。

日本より多文化をめぐる歴史の長いオーストラリアの大学における事例を通してムスリム大学生への対応の取り組みや制度を探りながら、宗教による多様化が予想される日本の大学環境づくりのための事例の参考として提示する。また、日本の高等教育におけるムスリム向けの礼拝施設設置を実施するにあたって、政教分離原則はどこまで影響を及んでいるのかを考察する。

キーワード：政教分離、宗教的多様性、日本高等教育、礼拝施設

論文審査結果の要旨および担当者

| | |
|---|--|
| 提 出 者 | Andi Holik Ramdani |
| 論文審査担当者 | (主査) 教授 木村 敏明 教授 高橋 原 教授 谷山 洋三 准教授 島崎 薫 |
| 論 文 名 | Secularism and Religious Diversity in Japanese Higher Education: A Case Study on Providing Prayer Spaces for Muslim International Students |
| <p>本論文は、日本の高等教育機関によるムスリム／ムスリマ留学生への対応、とりわけ礼拝スペースの確保をめぐる取組について、現地でのインタビューを中心とした調査を通してその実態を把握し、オーストラリアとの比較を視野に入れつつ、その特徴と課題を明らかにしたものである。</p> <p>第一章ではまず研究の背景として日本におけるムスリム／ムスリマ留学生の増加と、教育制度における宗教の位置づけの歴史的変遷が取り上げられ、日本の教育現場で宗教への対応のあり方が問い直されている現状が浮き彫りにされる。さらに在仙ムスリム／ムスリマ留学生の礼拝場所に関する予備調査を通して、本論文の目的と方法が明らかにされる。その上で第二章では世俗主義に関する先行研究を渉猟し、世俗主義国家の教育機関を分析するための枠組みが考察される。</p> <p>第三章ではオーストラリアの5大学の事例が現地調査をもとに紹介される。多文化主義を強く意識した同国の大学ではキリスト教諸派のみならず仏教、ヒンドゥ、ユダヤ教、イスラームなど多様な宗教伝統のチャプレンが雇用され、彼らによってそれぞれの信者の宗教実践のサポートがなされるとともに、宗教間や一般学生との対話イベントなどが企画されていることが示される。</p> <p>第四章ではまず日本の国立大学によるムスリム／ムスリマ留学生への対応の実態が明らかにされる。国立大学は宗教的活動を禁じる憲法や教育基本法への配慮から大学全体での対応に二の足を踏む一方、現実には多数のムスリム留学生が在籍しているところから、研究室や教員個人の工夫によって礼拝スペースを確保しているという実態が明らかにされる。他方、そのような法的制約を受けない私立大学では、キリスト教系大学も含めて、イスラーム圏からの留学生確保を目指して礼拝スペースの確保などに大学全体として積極的に取り組んでいることが指摘される。</p> <p>これらの知見をもとに、第五章では全体の議論と考察がなされる。オーストラリアの大学や日本の私立大学が大学主導でムスリム／ムスリマへの対応をしているのに対し、日本の国立大学は研究室や教員個人主導で対応がなされている。本論文では後者のような対応のあり方を「グラスルーツ型」と呼んで前者の「トップダウン型」から区別し、オーストラリアとは異なった日本的な他宗教への対応であると指摘している。</p> <p>本論文は、理論的な面ではなお考察の深化の余地を残し、論者の多文化主義理解などに疑問も残るが、世俗主義を建前とする日本の国立大学におけるムスリム／ムスリマ留学生への対応の特徴を「グラスルーツ型」として抽出することに成功しており、日本におけるニューカマー宗教の研究の進展に重要な貢献をなした。よって、本論文の提出者は、博士（文学）の学位を授与されるに十分な資格を有するものと認められる。</p> | |